

# 商工会議所 L O B O ( 早期景気観測 )

- - 平成 1 9 年 3 月調査結果 - -

( 平成 1 9 年 3 月 3 0 日 )

調査期間：平成 1 9 年 3 月 1 6 日 ~ 2 3 日

調査対象：全国の 4 0 7 商工会議所が 2 5 8 8 業種組合などにヒアリング  
( 内訳 ) 建設業 3 8 0 製造業 6 2 2 卸売業 2 3 4  
小売業 7 3 8 サービス業 6 1 4

調査項目：今月の売上・採算・業況などについての状況 ( D I 値を集計 )  
及び、業界として当面する問題など

## D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = ( 増加・好転などの回答割合 ) - ( 減少・悪化などの回答割合 )  
業況・採算 : ( 好転 ) - ( 悪化 )      売上 : ( 増加 ) - ( 減少 )

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6  
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ( <http://www.jcci.or.jp> )でもご覧になれます。

**業況DIは2カ月連続改善も、仕入コスト増、金利引き上げの影響あり**

3月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（27.8）よりマイナス幅が1.8ポイント縮小して26.0となり、2カ月連続でマイナス幅が縮小した。

産業別の業況DIは、建設、製造、卸売でマイナス幅が拡大したものの、他の2業種で縮小した。

景気に関する声、当面する問題としては、受注確保、消費好調、来店者数増加、先行き期待という声が寄せられている一方、公共工事の減少、気温低下による消費の低迷など業況低迷、仕入コスト・借入金利の上昇による採算悪化、日銀引き上げによるマイナス影響への懸念を訴える声も聞かれる。

【建設業】では、「銅やステンレス鋼などの原材料仕入価格が値上がり傾向にある」（電気工事）と、仕入コストの上昇を訴える声のほか、「公共工事の落ち込み、仕入コストや借入金利の上昇などにより、中小建設業者にとっては厳しい経営環境が続いている」（一般工事）と、業況低迷の原因として、仕入コストに加えて借入金利上昇を指摘する声も寄せられている。

【製造業】では、「受注は向こう3年分を確保しており、繁忙を極めている」（船舶製造・修理）との声があるものの、「中国やヨーロッパでの需要が高まっているニッケルなど非鉄素材の仕入コストが上昇している」（金属加工機械製造）、「金融機関が設定する貸出金利も高くなりつつあり、今後、企業経営に影響が出てくると推測している」（ブリキ缶等製造）と、仕入コストや借入金利上昇への懸念を訴える声も寄せられている。

【卸売業】では、「卒業式などのイベント需要等による堅調な消費に支えられ、先行きは堅調な推移を見込んでいる」（各種商品卸売）との声がある一方、「売上低迷に原材料や燃料などの仕入コスト上昇が重なり、収益が悪化している」（家具・建具等卸売）、「どの組合員も金融機関からの借入金を抱えていることから、日銀引き上げのマイナス影響はあるだろう」（他の卸売）と、仕入コスト上昇や日銀引き上げによる影響を懸念する声も寄せられている。

【小売業】では、「既存店の来店者数増加により、IT産業関連の好況を背景とした消費マインドの好転が感じられる」（百貨店）、「新年度開始を間近に控え、インテリア、自転車、布団など家庭雑貨関連商品の動向が好調」（百貨店）との声がある一方で、「3月は気温が低下して春物衣料品の売上が伸びず、昨年同月と比較しても全般的に悪化している」（商店街）、「寒が戻り、春物衣料品の動きが悪化、苦戦している」（百貨店）との声も寄せられている。

【サービス業】では、「業界全体は厳しい状況が続いているものの、景気回復基調の持続を反映して荷動きは回復への動きを続けている」（運送業）との声がある一方で、「歓送迎会の予約規模が年々縮小しているなど、業況は低迷している」（酒場・ピアホール）との声のほか、「業況は悪くないものの、見積作成依頼が年々減少しているとともに、借入金利負担増加分を価格に転嫁できるかどうか心配」（ソフトウェア）と、日銀引き上げの影響を懸念する声も寄せられている。

売上面では、全産業合計の売上DIは、マイナス幅が0.2ポイント縮小して19.5となり、2カ月連続で縮小した。産業別にみると、DI値は建設、製造、卸売でマイナス幅が拡大したものの、他の2業種で縮小した。

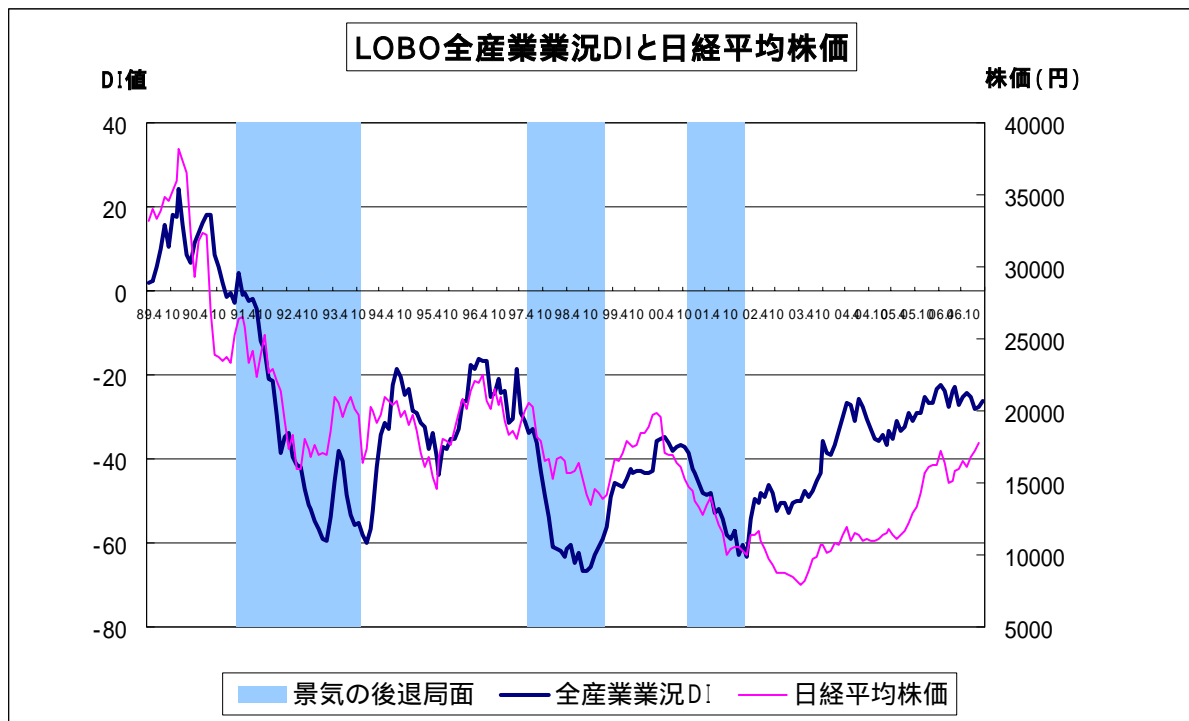
採算面では、全産業合計の採算DIは、マイナス幅が0.7ポイント縮小して24.7となり、2カ月連続で縮小した。産業別にみると、DI値のマイナス幅は建設、製造、卸売で拡大したものの、他の2業種で縮小した。

資金繰り面では、全産業合計の資金繰りDIは、悪化超感が0.6ポイント強まって20.1となり、2カ月ぶりに強まった。産業別にみると、DI値の悪化超感卸売、小売で弱まったものの、他の3業種で強まった。

仕入単価面では、全産業合計の仕入単価DIは、上昇超感が2.2ポイント強まって23.2となり、3カ月ぶりに強まった。産業別にみると、DI値の上昇超感サービスで弱まったものの、他の4業種で強まった。

従業員面では、全産業合計の従業員DIは、不足超感が0.1ポイント弱まって0.5となった。産業別にみると、DI値は卸売で過剰超感が弱まり小売で不足超感が強まったものの、建設で過剰超感が強まり他の2業種で不足超感が弱まった。

向こう3カ月(4月～6月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が20.8と、昨年同時期の先行き見通し(18.4)に比べて悪化している。



【業況についての判断】

3月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（ 27.8 ）よりマイナス幅が1.8ポイント縮小して 26.0となり、2カ月連続でマイナス幅が縮小した。

産業別にみると、建設、製造、卸売でマイナス幅が拡大したものの、他の2業種で縮小した。

向こう3カ月（4月～6月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I（今月比ベース）が 20.8と、昨年同時期の先行き見通し（ 18.4 ）に比べて悪化している。

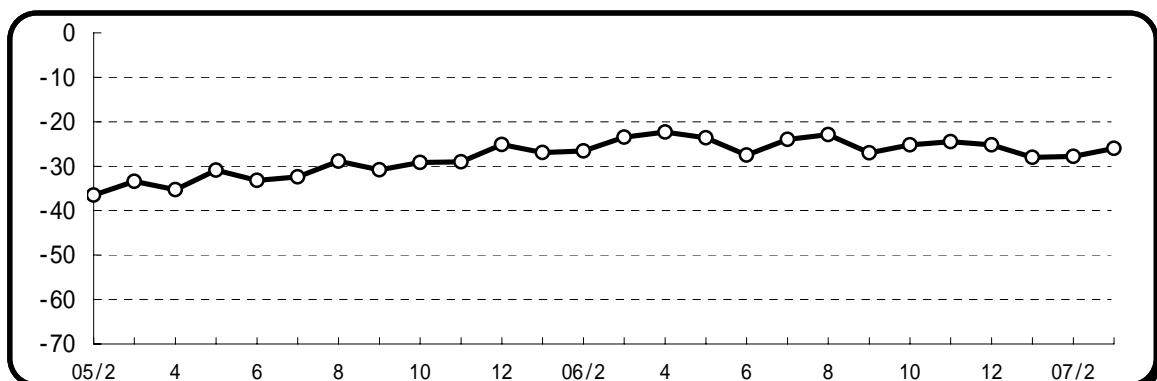
産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、小売、サービスでマイナス幅が縮小しているものの、他の3業種で拡大している。

業況D I（前年同月比）の推移

	18年 10月	11月	12月	19年 1月	2月	3月	先行き見通し 4～6月
全産業	25.2	24.5	25.2	28.0	27.8	26.0	20.8 ( 18.4)
建設	38.1	39.6	34.4	40.4	41.5	42.8	41.6 ( 32.4)
製造	13.4	11.3	15.2	18.1	14.3	14.5	14.5 ( 12.0)
卸売	34.4	36.6	31.3	31.9	35.8	37.7	28.2 ( 17.2)
小売	23.1	22.8	25.6	28.7	30.0	25.4	16.7 ( 17.2)
サービス	28.1	25.7	27.0	28.1	27.2	23.7	16.6 ( 18.4)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I  
（ ）内は昨年3月の先行き見通しD I <以下同じ>

《業況D I（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

売上面では、全産業合計の売上D Iは、マイナス幅が0.2ポイント縮小して19.5となり、2カ月連続で縮小した。産業別にみると、D I値は建設、製造、卸売でマイナス幅が拡大したものの、他の2業種で縮小した。

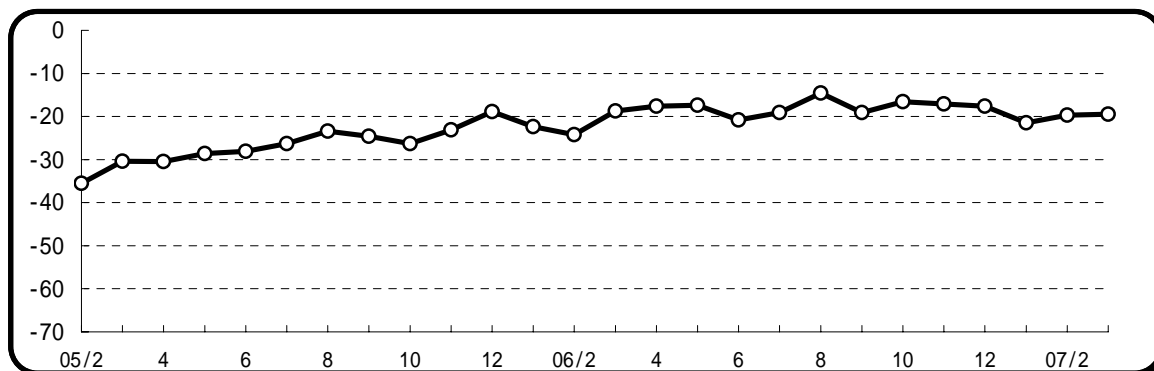
向こう3カ月(4月～6月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月比ベース)が13.6と、昨年同時期の先行き見通し(12.7)に比べて悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、小売、サービスでマイナス幅が縮小しているものの、他の3業種で拡大している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	18年			19年			先行き見通し 4～6月
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
全産業	16.6	17.1	17.6	21.5	19.7	19.5	13.6 (12.7)
建設	29.6	32.4	27.3	29.7	30.0	35.8	40.3 (34.7)
製造	1.2	2.9	4.2	8.9	0.5	6.5	6.8 (3.7)
卸売	22.9	30.7	22.5	29.4	33.3	34.4	19.5 (10.8)
小売	17.0	20.7	19.5	26.6	26.0	19.7	6.4 (11.0)
サービス	23.8	18.3	20.9	20.0	20.0	16.8	10.6 (11.3)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

採算面では、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が0.7ポイント縮小して24.7となり、2カ月連続で縮小した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は建設、製造、卸売で拡大したものの、他の2業種で縮小した。

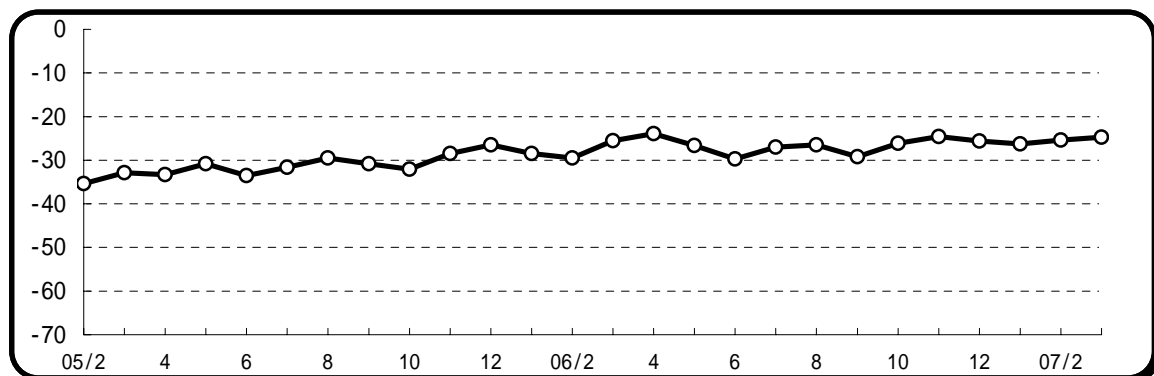
向こう3カ月(4月～6月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が18.8と、昨年同時期の先行き見通し(19.1)に比べて改善している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、建設、製造、卸売でマイナス幅が拡大しているものの、他の2業種で縮小している。

採算D I (前年同月比) の推移

	18年		19年		先行き見通し		
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4～6月
全産業	26.1	24.6	25.6	26.3	25.4	24.7	18.8 (19.1)
建設	42.0	43.8	43.0	41.4	36.2	39.9	42.4 (36.3)
製造	21.7	16.2	18.8	20.4	16.0	20.9	18.0 (14.9)
卸売	29.3	29.4	30.6	31.3	31.4	34.4	19.5 (13.4)
小売	18.7	19.1	18.5	24.1	25.4	17.5	10.3 (15.0)
サービス	27.8	25.5	27.8	23.6	25.9	24.2	15.3 (19.9)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	18年 10月	11月	12月	19年 1月	2月	3月	先行き見通し 4~6月
全産業	19.2	16.6	17.6	19.6	19.5	20.1	17.5 (16.6)
建設	30.8	27.3	29.5	30.5	29.6	36.8	34.4 (30.3)
製造	15.2	12.7	13.9	14.0	11.1	12.5	13.3 (12.6)
卸売	18.2	14.5	19.3	18.5	19.0	18.6	21.5 (13.6)
小売	16.2	12.5	13.6	19.6	21.5	17.6	14.0 (14.1)
サービス	18.7	18.9	17.1	18.4	19.6	20.8	13.9 (16.5)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

- 【前年同月比D I】全産業合計は悪化超感が2カ月ぶりに強まった。産業別にみると、卸売、小売で悪化超感が弱まったものの、他の3業種で強まった。  
 【先行き見通しD I】全産業合計は悪化超感が強まる見通し。産業別にみると、小売、サービスで悪化超感が弱まる一方、他の3業種で強まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	18年 10月	11月	12月	19年 1月	2月	3月	先行き見通し 4~6月
全産業	27.1	24.4	26.0	21.8	21.0	23.2	17.7 (17.0)
建設	34.2	35.6	38.0	34.1	34.1	35.8	28.2 (23.8)
製造	40.7	41.4	42.9	40.0	34.8	41.7	30.1 (23.5)
卸売	34.4	24.2	27.5	15.0	20.1	25.8	20.1 (16.6)
小売	12.7	10.9	8.7	7.5	6.9	10.1	7.4 (8.0)
サービス	23.0	16.3	20.4	15.0	15.6	11.5	10.3 (16.8)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

- 【前年同月比D I】全産業合計は上昇超感が3カ月ぶりに強まった。産業別にみると、サービスで上昇超感が弱まる一方、他の4業種で強まった。  
 【先行き見通しD I】全産業合計は上昇超感が強まる見通し。産業別にみると、小売、サービスで上昇超感が弱まる一方、他の3業種で強まる見通し。

従業員 D I（前年同月比）の推移

	18年 10月	11月	12月	19年 1月	2月	3月	先行き見通し 4～6月
全産業	0.2	0.4	2.7	0.2	0.6	0.5	1.9 ( 2.9)
建設	14.7	13.4	12.9	14.7	14.7	16.1	19.4 ( 12.2)
製造	1.9	3.2	3.9	0.0	3.6	1.8	3.8 ( 6.4)
卸売	3.2	3.3	1.3	5.0	6.9	5.3	7.8 ( 7.2)
小売	5.9	5.5	8.2	6.0	5.9	8.5	5.6 (4.1)
サービス	1.2	1.7	7.0	3.4	3.9	1.8	4.5 (0.3)

D I = ( 不足の回答割合 ) - ( 過剰の回答割合 )

【前年同月比 D I】全産業合計は不足超感が弱まった。産業別にみると、卸売で過剰超感が弱まり小売で不足超感が強まる一方、建設で過剰超感が強まり他の 2 業種で不足超感が弱まった。

【先行き見通し D I】全産業合計は過剰超感が弱まる見通し。産業別にみると、建設、卸売で過剰超感が強まる一方、製造で過剰超感が弱まり他の 2 業種で不足超感が強まる見通し。



【平成19年3月の景気キーワード】

景況一進一退

ヒアリング先からは、「売上落ち込みの動きは、最近になって少し緩和されている感がある」(佐倉・百貨店)、「3月も前年同月の売上を越えており、4月もこの流れは変わらないと思う」(土佐清水・食堂・レストラン)とのコメントが寄せられている。一方、「暖冬の影響で除雪作業が少なく、公共工事は受注しても採算が取れない」(福島・建築工事)、「楽器業界では、大手企業の業況は堅調に推移しているものの、中小企業は低迷の域から脱していない」(浜松・楽器製造)、「企業間で足元の業況感到格差が発生しており、先行きも不透明感が漂っている」(多治見・家具・建具等卸売)、「大手スーパーは問屋を通さずに生産者から商品を直接仕入れるため、卸売業の市場規模が縮小している」(茨木・農畜産水産物卸売)といったコメントも寄せられている。

仕入コスト上昇

また、原材料価格の高騰による仕入コストの上昇を訴える声が寄せられている。建設、製造からは、「原材料の仕入コストや建設機械のリース料が上昇し始めた」(松戸・左官工事)、「販売価格への転嫁ができていない状況にもかかわらず、原材料の仕入コストがさらに上昇した」(岩見沢・印刷業)、「原材料価格が再び高騰しているが販売価格に転嫁できる状況ではなく、収益が悪化している」(名古屋・非鉄素形材製造)、「ガスや石膏などの仕入コストが上昇しており、当業界の厳しい業況に追い打ちをかけている」(伊万里・陶磁器・同関連製造)との声が寄せられている。また、小売、サービスからは、「売上が増加したものの、仕入コストも上昇したため、採算は好転していない」(廿日市・商店街)、「個人消費の動向が横ばいであるのに加え、燃料の調達コストが上昇している」(松山・旅館)といったコメントも寄せられている。

日銀利上げ後の影響

一方、日銀利上げ後の企業経営、個人消費への影響に関する声も聞かれている。建設、製造、卸売からは、「住宅ローン金利上昇の影響による受注減少、自社の借入金利上昇が懸念材料」(川崎・一般工事)、「事業者の借入金利引き上げの影響を受け、納品先からコストダウン要請が来ている」(直方・鉄素形材製造)、「原材料価格高騰分を価格転嫁できていない状況に加えて、借入金利上昇という新たな懸念材料が発生した」(瑞浪・家具・建具等卸売)との声が寄せられている。また、小売、サービスからは、「間接金融中心の中小企業にとっては、借入金利の引き上げが行われると経営が厳しくなる」(唐津・百貨店)、「組合から利子補給を受けられるため、今のところ、日銀利上げによる影響はない」(帯広・自動車整備)、「借入金利引き上げの影響は大きく、また、預入金利上昇で個人消費が伸びるかどうかは分からない」(福岡・スポーツ施設)といったコメントも寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年	月	景気キーワード		
19年	1月	回復への動き	悪化への懸念	暖冬の影響・効果
	2月	景況一進一退	暖冬の影響	借入金利引き上げ懸念
	3月	景況一進一退	仕入コスト上昇	日銀利上げ後の影響

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

本文中の( )内は、(地名・業種)を示す。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況・売上D Iは3カ月連続、採算D Iは4カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「仕入単価の高止まりや受注競争の激化で収益は悪化しており、今後、資金繰りにも影響が及ぶ可能性もある」(建築工事)「受注額は増加しているが、収益は好転していない」(土木工事)とのコメントのほか、「公共工事の落ち込み、仕入コストや借入金利の上昇などにより、中小建設業者にとっては厳しい経営環境が続いている」(一般工事)「銅やステンレス鋼などの原材料仕入価格が値上がり傾向にある」(電気工事)といった声も寄せられている。
製 造	業況・売上・採算D Iともに2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「諸経費の増加により採算は依然として厳しいものの、受注は確保できている」(織物製造)「受注は向こう3年分を確保しており、繁忙を極めている」(船舶製造・修理)との声があるものの、「中国やヨーロッパでの需要が高まっているニッケルなど非鉄素材の仕入コストが上昇している」(金属加工機械製造)「金融機関が設定する貸出金利も高くなりつつあり、今後、企業経営に影響が出てくると推測している」(ブリキ缶等製造)「今後、消費が好転するとは思えず、逆に、円安により原材料価格が上昇する可能性が高いと考えている」(パン・菓子製造)といった声が寄せられている。
卸 売	業況・売上D Iは3カ月連続、採算D Iは6カ月連続でマイナス幅が拡大した。「卒業式などのイベント需要等による堅調な消費に支えられ、先行きは堅調な推移を見込んでいる」(各種商品卸売)との声がある一方、「売上低迷に原材料や燃料などの仕入コスト上昇が重なり、収益が悪化している」(家具・建具等卸売)「どの組合員も金融機関からの借入金を抱えていることから、日銀利上げのマイナス影響はあるだろう」(他の卸売)「受注単価が前年に比べて低下しており、利益確保に苦慮している」(食料・飲料卸売)といった声が寄せられている。
小 売	業況D Iは4カ月ぶり、売上D Iは2カ月連続、採算D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「既存店の来店者数増加により、IT産業関連の好況を背景とした消費マインドの好転が感じられる」(百貨店)「新年度開始を間近に控え、インテリア、自転車、布団など家庭雑貨関連商品の動向が好調」(百貨店)「売上は昨年同時期と比較して若干ながら増加しており、業況は全体として好調を維持している」(その他の小売)との声がある一方、「3月は気温が低下して春物衣料品の売上が伸びず、昨年同月と比較しても全般的に悪化している」(商店街)「寒が戻り、春物衣料品の動きが悪化、苦戦している」(百貨店)といった声が寄せられている。
サービス	業況D Iは2カ月連続、売上・採算D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「わずかではあるが、景気回復の兆しが出てきたように感じる」(理容)「業界全体は厳しい状況が続いているものの、景気回復基調の持続を反映して荷動きは回復への動きを続けている」(運送業)「市内で再開ビルがオープンしたため、その影響による売上増加、業況回復を期待している」(料亭)との声がある一方、「業況は悪くないものの、見積作成依頼が年々減少しているとともに、借入金利負担増加分を価格に転嫁できるかどうか心配」(ソフトウェア)「歓送迎会の予約規模が年々縮小しているなど、業況は低迷している」(酒場・ピアホール)といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、北海道、北陸信越、四国でマイナス幅が拡大したものの、他の6ブロックで縮小した。なお、全ブロック合計は2カ月連続でマイナス幅が縮小した。

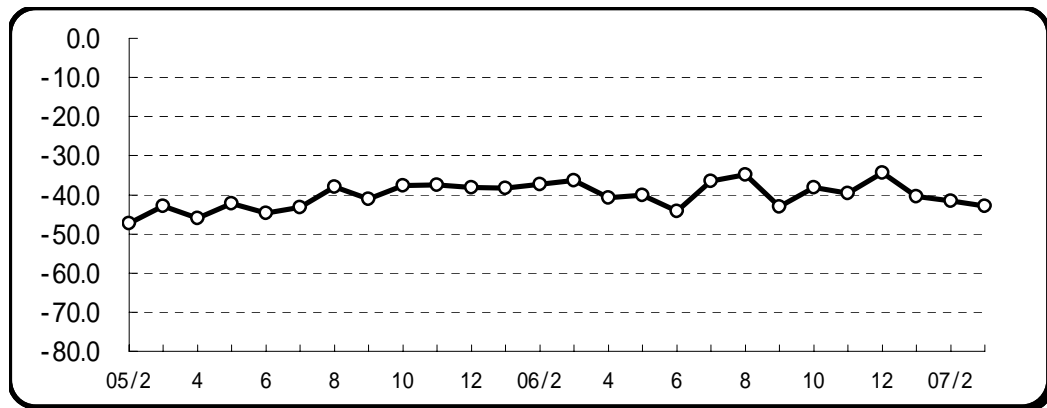
ブロック別の向こう3カ月(4月~6月)の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、東北、中国で改善しているものの、他の7ブロックで悪化している。なお、全ブロック合計は悪化している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

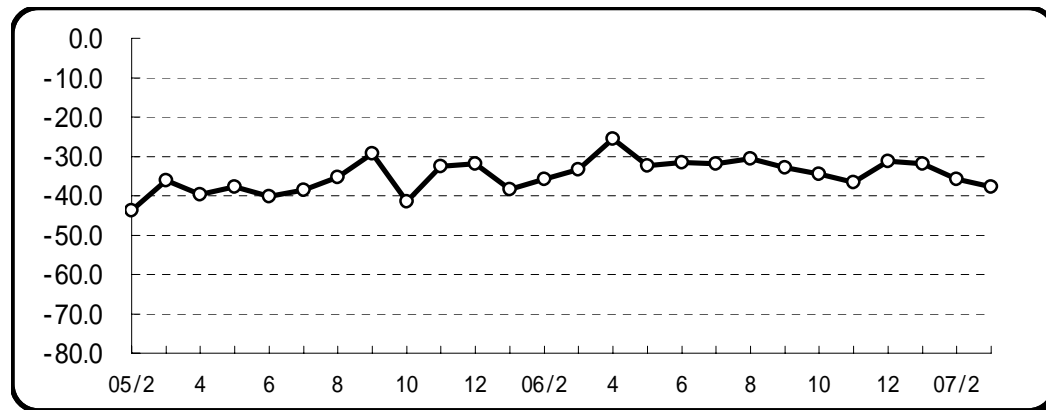
	18年 10月	11月	12月	19年 1月	2月	3月	先行き見通し 4~6月
全 国	25.2	24.5	25.2	28.0	27.8	26.0	20.8 ( 18.4)
北海道	30.2	26.4	32.7	39.8	39.0	41.0	30.8 ( 25.7)
東 北	27.7	24.5	27.4	29.3	36.7	29.2	20.1 ( 22.9)
北陸信越	10.6	16.5	11.7	17.0	14.0	23.7	20.4 ( 18.4)
関 東	25.2	23.1	23.4	25.2	23.4	22.2	16.7 ( 13.4)
東 海	20.6	15.6	22.4	19.0	19.8	17.8	19.4 ( 10.9)
近 畿	24.9	34.4	26.4	33.1	34.2	25.4	25.4 ( 23.7)
中 国	37.8	29.4	26.5	32.1	35.0	28.8	21.4 ( 21.9)
四 国	35.3	32.1	38.6	40.0	33.6	34.0	26.2 ( 24.6)
九 州	22.8	19.8	27.0	25.0	28.6	24.8	15.7 ( 14.2)

# 業況DI（前年同月比）の推移（全国）

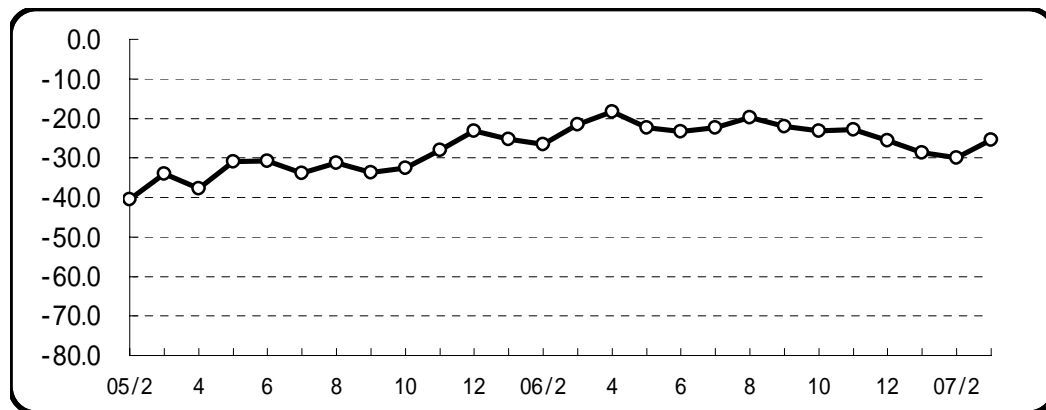
## 建設業



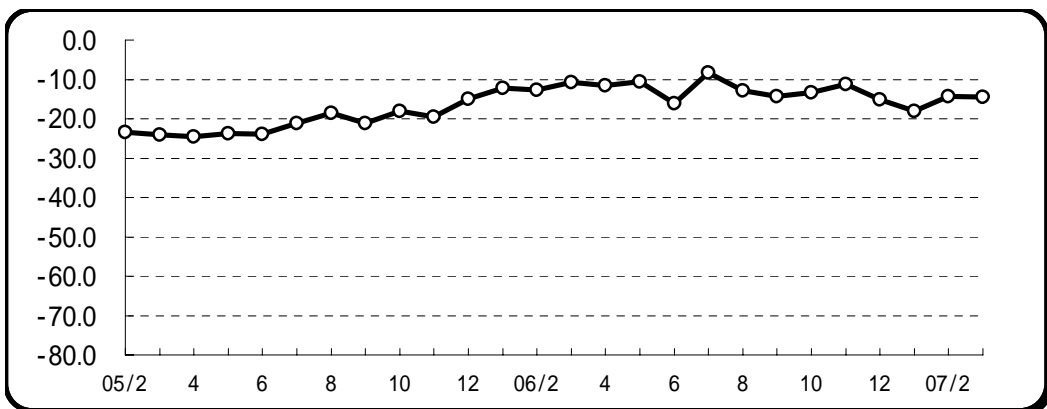
## 卸売業



## 小売業



## 製造業



## サービス業

